

月読社つきよみのやしろは松尾まつのをの南二町にあり、松尾七社の内なり〔当社鎮座のはじめは、往昔にして年歴知れず、松尾より以前と見えたり。齊衡三年三月に、山城国葛野郡かどの月読社つきよみのを松尾の南に遷すよし、文徳実録に出たり。又文徳帝ふんとく御宇仁寿三年に、痘瘡大に流行して諸人これを愁ふ、此時当社の神託ありてその害を救給ふ、是よりして貴賤痘瘡の災を免れんため此社に詣で、神のたすけを祈る由、三代実録にあり〕